ストロンチウムの雨が降る
核実験の放射能害について

本　多　喜　美

梅雨の季節になりましたが、最近この雨にまじつて多量の放射性物質が地上に降りそそいでいることがわかりました。

東大農学部で一昨年から昨年にかけて、粉ミルクの中に含まれるストロンチウム90を、北海道から四国までほぼ全国におよぶ生産地別に調べたところ、雨が多い地方ほどストロンチウム90の含有量が多くなつていました。その量は一キログラムに対し多いものは八二・二マイクロ・マイクロキユリー、少いもので五・八マイクロ・マイクロキユリーありました。乳幼児が一年間に使用する粉ミルクの量は約二五キログラムですから、ストロンチウム90を多く含んだものを使用すると二〇五五マイクロ・マイクロキユリー、少いもので一五四マイクロ・マイクロキユリーになります。ところで小児を含めた一般人のストロンチウム90の許容量（人体に影響しないといわれる量ですが、遺伝学上からすると少量でも影響があります）は、一〇〇マイクロ・マイクロキユリーですから、許容量の二〇倍以上という数字になり、少量のものでも許容量を越しているのです。

また群馬大学で、東京、群馬、広島、宮崎の小学生の尿からストロンチウム90やセシウム一三七を発見しました。これは放射能で汚れた食物を食べている私たちの体には、すでに放射性物質がしのびこんでいることを証明するものです何と肌寒いことでしょう。イギリスでも、ひとりの死産児の体からストロンチウム90が発見されています。母親の体にもストロンチウム90がありました。お母さんの体から、お腹の子供にストロンチウム90が流れていたためなのです。

おそろしい遺伝

最近発表された原子力委員会の報告によると、米、野菜、肉、魚、お茶、牛乳など、われわれが日常口にするたべ物に含まれるストロンチウム90セシウム一三七の量はますます多くなつています。そのため都会人は毎日二・〇三マイクロ・マイクロキユリー、米、野菜を多く食べる農村では五・八マイクロ・マイクロキユリー、玄米や雨水を使用する所では二六マイクロ・マイクロキユリーの放射能をたべ物と一緒にのみこんでいることがわかりました。人体への影響はいまのところ解らないといつていますが、解らないから無害とはいえません。

科学は常に証拠を必要とするので研究がすすめられたところまでしか報告しません。しかし、解らないといつているうちに一方では核実験の落し子は地上に降下しているのです。十年後には最大量になると推定されています。この放射性降下物を防ぎきれるほどの大きな傘は日本にも世界にもありません。

国連科学委員会が昨年発表した、核実験による放射性降下物による白血病や遺伝的影響の数字は、その後の放射性降下物の増量の事実から訂正されなければなりません訂正された数は、白血病は毎年五千人、遺伝的な悪影響は将来にわたつて二十五万人です。国連報告数の二倍以上です。このようなできごとは私たちが初めての経験ですから、まだまだ予想もしない変化が起り得る可能性は十分あります。証拠を求めてから実験停止というのでは遅すぎます。

大変すくない量だから安心とはいえないのは、その受けた放射線量の程度によつて変化があらわれるまでに時間がいろいろあるからです。多いものは早々変化があらわれるし、すくないものは時間がかかります。

事實に目を覆うな

広島や長崎の被爆者の中に、白血病が発生したとき、はじめのころは爆心地に近い所からの発生が多かつたのです。数年後には、爆心地から二キロメートル以上はなれた所からも発生数が増加しています。これは爆心地に近い者ほど放射線を多く受けていますから、早早変化があらわれ易いのです。放射能害の一番いやなことは、被爆者一代でその災害が終らないことです。

遺伝学的にいうと、孫子の代にまでたたるということです。受けた放射線の量によつてその影響の仕方はいろいろです。子供ができないもの、ニンシンしても流産したり、死産したり、その死産児の中に奇形が解剖によつて発見されたりします。広島大学の報告では被爆者に流産、死産が多くあらわれています。

長崎大学の調査でも被爆者の死産児に奇形が多くみられます。百人中二人無脳児があることもわかりました。被爆者でない人たちの死産児の死体と比較しましたが、体中の各部分の奇形が被爆者の死産児の方がどの部分でも二倍から三倍変化が多かつたのです。奇形の話は、被爆者にとつて苦痛ですが現在私たちは程度の差はあつてもみな被爆者ですから真実は知つていなければなりません。

今ジユネーブで外相会議が開かれていますが、この会議の成果が核実験の無条件永久停止を促進することを願わずにはおられません。母親から生れない政治家はいないのですから、母なる婦人は自信をもつて今年こそは核実験の無条件永久停止をかちとるために、更に原子戦争を絶滅するために、平和への切なる願いをこめて世界の婦人と共に今こそ声高く行動しなければなりません。

（ほんだ・きみさんは女医、原水協常任理事）

なかまの本棚 (34)

「社会主義対資本主義」

社会主義国ソ連と資本主義国アメリカをとりあげ、両国の現代史から説き、東西の科学、教育、その他いろいろな問題を比較して、どうしてもソ連に有利とみる。

アメリカの一枚看板である自由主義・民主主義は、戦後マツカーシズムによつて崩れつつある事実それに対してソ連は、いわゆる「雪どけ」いらい、ほんものの民主主義を身につけていること、すべての点でソ連がイニシアチブをとつている感がある。資本主義に特有な恐慌に対して支配者はビクビクだが、社会主義の国においては国家はますます発展するのである

いまや社会主義は世界体制になりつつある。誰が何といおうと、社会主義は必然である。

「私たちは米・ソ二大陣営の谷間におかれているとか、米・ソいずれの陣営にも属さないとかいうような、いわば二つのものをたして二で割つたような中途半端でいい加減な立場をとつていることはできない。思想のたたかいのほんとうの意味をよくつかみ、ほんものと、にせものをよりわける能力をつちかつて、この世界的なウズマキの流れのなかで、どう自分たち自身を処していくのか―。私たちは、国民としても、本気で考えてみるときにきているのではあるまいか」

著者はこう結んでいる。いろいろな面にわたつて簡単な統計もあり、それが実際的ならうらづけになつているし、わかりやすい本である。多くの人に読んでいただきたい。

四山支部　立山　寿章

光文社カツパ文庫

青年の悩みと考え

雑記帳 (22)

金　子　従　満

農村青年は何を考え何を悩んでいるか、農村青年の実態を把握するため三橋町青年団ではこのほどアンケートをこころみた。配布一〇〇、集約八二の興味ある解答をみたが、これにより農村地帯の若人たちの思想、生活実態の一断面が浮彫りにされた。農村青年への理解を深めるのに一つのステップになろうと、集約を提供した。

（註＝金子氏は団長　宮浦支部）

【政　治】

一、貴方はどの政党を支持していますか

	男	女	計
(1)自民党	5	28	33
(2)社会党	36	13	49
(3)共産党	0	0	0

男は革新色が断然強く逆に女の六割が保守党支持なのが注目される

二、貴方は岸内閣を支持しますか

	男	女	計
(1)支持する	0	16	16
(2)支持しない	31	10	41
(3)わからない	10	15	25

男の支持は一人もなく、今はわずかに支持が多く前問を裏書している。

三、政府に対して貴方は何を強く望みますか

（男女共）(1)社会保障制度の確立(2)失業対策(3)日中国交回復(4)総辞職(5)減税(6)安保条約改正の阻止(7)勤評反対(8)三悪追放等が出て政府の反省をうながしている。

四、新憲法の家族制度をどう思うか

良い63　悪い3　分らない16

理由は個人の尊重、相続権の平等

【経　済】

五、今後の日本経済をどう思うか

(1)上昇24　(2)横バイ46　(3)下降12

六、貴方は貯蓄していますか

(1)している	21
(2)その余裕がない	61

男女合して貯蓄している人は二五%に過ぎず、少ないがこれは農業が主体であるため親が家計を持つている以上やむを得ない現象だ。

【文　化】

七、貴方の愛読書を三冊

（男子）彼岸花・エチケツト・愛のかたみ・戦争と平和・資本論・氷壁・愛は死を越えて・職場・成功は君のものだ・文春・週刊朝日・毎日・実業の日本

（女子）若い女性・週間女性・婦人生活・ドレスメーキング・人間の条件・二十四の瞳・女の一生

八、読書（月刊雑誌含む）は月平均何冊しますか

男子　三－四冊　女子　三冊

九、映画は月平均何回見ますか

男女平均三回で洋画、邦画同数位

十、趣味を三つ

男子(1)スポーツ(2)映画(3)読書(4)音楽(5)魚つり(6)登山

女子(1)読書(2)料理(3)生花(4)映画(5)スポーツ(5)音楽

【生　活】

十一、現在最も楽しい事を三つ

▽運動している時▽深夜の音楽鑑賞▽読書している時▽文通▽料理して皆で食べる時▽山登り

十二、現在最も苦しい事を三つ

▽貧乏▽多忙▽恋愛の苦しみ▽酒が多すぎる▽人間関係▽汚職

十三、現在の自分の職業に満足していますか　（男女計）

(1)満足している	17
(2)満足ではないが大体良い	34
(3)満足していない	31

十四、将来に対する希望や夢を…

平凡なサラリーマン、税金のない国、道路拡張整備、外遊、農村の完全な機械化、内閣総理大臣、密月旅行、戦争のない平和な国

【恋愛と結婚】

十五、将来結婚される場合

(1)見合結婚	5
(2)恋愛結婚	23
(3)両方加味合したもの	54

十六、貴方の好きな女性のタイプ

▽聡明で教養ある健康美の人▽理解があり、援助を惜まない人▽良妻賢母となれる人

貴女の好きな男性のタイプ

▽健康で明朗な人　▽堅実な人▽誠意のある真面目な人▽健康でお互に理解し合える人

十七、将来の伴侶となる人の結婚の条件として重要する順序

男子	女子
(1)健康(6)学歴	(1)健康(6)血統
(2)愛情(7)生活力	(2)愛情(7)教養
(3)性格(8)財産	(3)性格(8)職業
(4)教養(9)血統	(4)学歴(9)財産
(5)容姿(10)職業	(5)生活力(10)容姿

男女共三番まで同じという面白い結果を生み、次に男は教養、容姿を重く見、女は学歴と生活力、血統等に重点を置いているのが注目される。

歩けなかつた赤間自白コース
松川事件・最後の現地調査

【KNA＝吉田記者】最高裁判決をま近かにひかえた松川事件の最後の現地調査が、五月十一十二日十七－十九日の二回にわたつて行われた。参加者は全国から六百人をこえ、映画監督山本薩夫、新藤兼人、俳優三国連太郎、望月優子、作家阿部知二、評論家神崎清、婦団連会長櫛田ふき氏らも加わつた。調査団は関係地点を〃赤間自白〃のコースに従つて踏査して事件のデツチ上げを身をもつて感じとり、二日目はいまなお獄中にある杉浦、鈴木、本田の三被告と塩釜市坂病院で療養中の佐藤一被告を訪問激励、さらに最終日には全国活動者会議をひらいて、判決までの運動を全力をあげて盛上げようと誓いあつた。以下、最後の現地調査参加記。（機関紙通信より）

「おどろいたなア。こんな道を歩けるもんか」――調査団の中から思わず声が出る。赤間、高橋、本田の三被告が福島から転ぷく現場まで歩いたという〃赤間自白コース〃の〃難関〃平石トンネルの上だ。片足の幅しかない道。途中でストンと三十センチも落ちている道。一歩ふみはずせば田んぼの中夜間検証した第二審の裁判官が落ち込んだというのもこのあたりだ二時間かかつても夜中に無事歩き通せる道ではない。しかも高橋被告は負傷で歩行苦痛の体。おまけに途中雨さえ降つたことになつている。三人が五十五分で歩いたとされた浅川踏切近くまで行つた頃には、調査団の連中もいささかグロッキーだつた。

三人の集合地点といわれる鈴木材木店のすぐそばを、阿武隈川にそそぐ濁川（にごりがわ）が流れている。名の通りにごつた小さい川である。転ぷく作業のかえり道、赤間被告が作業に使つた手袋を投げすてたとされている森永橋がそこにかかつている。事件のほぼ四十日後の九月二十五日、警察が大捜査陣をしいて森永橋よりはるか下流で一つが発見された。警察はこれこそ赤間自白の真実性を裏づける有力な証拠だと大喜びした。だが第二審も鑑定の結果、これが赤間被告のものではないことがはつきりした。もともと赤間自白はウソだつたのだ。が、二審判決はおかしな判定を下した。「事件の後で台風があつたのだから、赤間が捨てた手袋が流れ去つたとみるのが当然である。赤間の手袋が見つからないからといつて赤間自白がウソだとはいえない」

判決のおかしな理論に調査団はどつと笑つた。笑うほかに手がないほどばかばかしいのだ。しかし笑いごとじやない。こんな理論が認められるなら、国民はなんの証拠もないまま犯罪人にされてしまうおそれがあるのだ。

コース踏査の途中、昼食時を利用してバール、スパナの実験が行われた。実験者は当の赤間被告。判決がいう自在スパナでレールのナツトをはずそうとするのだが、国鉄用の片口スパナで強くしめられたナツトはびくともしない。赤間被告が汗をかくだけだ。継目板のこじあけのとき、自在スパナの柄はひんまがつてしまつた。二十数分間にこんなスパナでレールを一本とりはずせるわけはない。

転ぷく現場には小さな殉職の碑と地蔵さんが立つている。碑の側面に彫られた碑文には「太平洋戦争終了後犯罪ノ数激増シ過激思想モ亦台頭ス世人齊シク之ヲ憂フルノ時偶昭和廿四年八月…」とあり、事件は〃過激思想〃によるものだという印象を与える。うらみをのんでここにねむる三人の国鉄労働者のためにも、碑文を正しく書き直すためにも、二十人の無罪をかちとり、一日も早く事件の真相を明らかにしなければならない、

獄中の三被告に会う

無実の罪で捕われた二十人のうち杉浦三郎、鈴木信、本田昇の三被告＝死刑判決＝はいまなお宮城刑務所の高い壁の中にとじ込められている。

「毎日ホルモン注射をやつてますよ」と笑う鈴木さん、「どうもごくろうさまです」と逆に面会人を激励する本田さん、「いつも太陽の方を向いていまひまわりの絵をかきます。明るい絵を」という杉浦さん。三人とも明るく元気そうだ。せまい面会所の中に高笑いさえこだまする。へだてた二重の金網をふきとばすように―。

だが、三人とも決して健康ではない。十年間も陽のあたらぬ場所にとじこめられていて健康を保てるはずはない。鈴木さんは全身に白なまずがひろがり、杉浦さんは高血圧と肝臓、心臓の機能障害、本田さんは強度の拘禁性ノイローゼにかかつている。三人の健康を守るためにも一日も早く釈放をかちとらなければならない。

結核で塩釜市坂病院に入院中の佐藤一被告は、外部への訴えやら面会やらで十分療養するヒマはないという。「他の患者さんの信望も厚く模範患者ですがね、病人としての療養態度は十分ではないようです」と佐藤さんをみやりながら笑う主治医の高橋実院長。「いやア」と手をやつた頭をペコリとさげる佐藤さんは「ここまで生きのびれるとは思いませんでした。みなさんの運動のおかげです」と語る。「諏訪メモの発見で、官憲が事件の真相をかくしていることがはつきりしました」。病魔も佐藤さんの闘志をくいつぶすことはできなかつた。その佐藤さんは五月十九日釈放された。最高裁が「死刑」を保釈した前例はなかつた。阿部、二宮＝以上無期、太田＝十五年＝三被告の保釈につぐ佐藤被告の保釈は松川裁判の前途に明るい見通しを与えた。国民の運動はここまで大きくなつてきたのだ。さらに残る三人の保釈をかちとることもむずかしいことではない。〃無実のものを殺すな〃、〃公正裁判をせよ〃の声を国中、いや世界中にひびかせ、ま近かに迫つた判決で全員無罪の判決を勝ちとることは十分できる。真実は必ず勝利するのだ。